

# 福岡大学病院における性同一性障害治療の現状と症例の特徴について

矢野 里佳<sup>1)</sup> 浦島 創<sup>1)</sup> 縄田 秀幸<sup>1)</sup>  
田中真理子<sup>1)</sup> 甲斐 佳美<sup>1)</sup> 西村 良二<sup>1)</sup>  
井上 善仁<sup>2)</sup> 城田 京子<sup>2)</sup> 瓦林達比古<sup>2)</sup>  
入江慎一郎<sup>3)</sup> 田中 正利<sup>3)</sup> 衛藤 明子<sup>4)</sup>  
大慈弥裕之<sup>4)</sup> 皿田 洋子<sup>5)</sup>

1) 福岡大学医学部精神医学教室

2) 福岡大学医学部産婦人科学教室

3) 福岡大学医学部泌尿器科学教室

4) 福岡大学医学部形成外科学教室

5) 福岡大学大学院人文科学研究科

要旨：性同一性障害（Gender Identity Disorder；GID）の治療は、現在「GIDに関する診断と治療のガイドライン」に沿った形で行われているが、治療を提供できる医療機関が少ないという現状がある。当院ではガイドラインに沿った治療を行うために、2004年2月にGID研究会を設立、12月に「GIDに対するホルモン治療」が福岡大学医学部医の倫理委員会で承認され、2005年3月より開始となった。また、2006年8月に「GIDに対する乳房切除術による治療」が福岡大学病院臨床研究審査委員会で承認され、2007年4月に1例目が施行となった。2007年3月までの初診者数は167例（Male to Female：63例，Female to Male：104例）であり、その特徴は、ガイドラインに沿った治療を提供している他施設からの報告と類似する点が多い。今後も受診者数の増加は予想され、対応へのさらなる検討は必要と思われる。

キーワード：性同一性障害，精神療法，ホルモン療法，乳房切除術，性別適合手術